（様式２）報告書

令和５年度　小中連携教育推進校報告書

美鈴が丘小学校
美鈴が丘中学校

１　学校の課題

※データ等を基にした学校の課題

令和５年度実施の新入生確認テストの結果から、「ローマ字で名前を書く」項目の達成度が５０％であった。また、「聞き取り（会話）」項目の達成度も５０％を切っており、小学校授業等において、目的や場面、状況等を設定した言語活動の不足が予想された。学校協力者会議においても、これらの達成度の低さから英語教育の充実が話題に上っていた。

学校評価アンケートより、自己有用感の低さも明らかになっている。

よって、学力の向上と自己有用感醸成をどのように図るかが課題として挙げられる。

２　研究主題

９年間を見通した学力向上と自己有用感醸成を目指した小中連携の推進
～教科交流・異年齢交流・地域交流を通して～

３　取組内容

※１の課題解決に向けて、重点的に取り組む項目とその具体

（I）　英語授業の充実

①　ＣＡＮ―ＤＯリスト作成

中３卒業時の目指す生徒像を小学校英語専科指導教諭、６年担任と中学校外国語科教諭で共有した。さらに、小６が中１へソフトランディングできるように、内容面と指導面をつなぐＣＡＮ―ＤＯリストを作成した。

取り組み初年度であるため、次年度への改善を含め、アップデートを行っていった。

②　中学校外国語科教員による小学校での授業（７０時間）

専科として、中学校外国語科教員が小学校で授業を行うことで、中学校到達段階も視野に入れた専門性の高い内容の授業を行うことができた。特に、音声指導と文字指導においては、小６の授業開始時と２月末の授業と比較した生徒のふり返りからも効果があった。

③　中学校と同じ帯活動・クラスルームイングリッシュ

進学したときの心理的バイアスを取り除くために、難易度は下げているが中学校と同様の帯活動を行った。また、段階を踏んだ英語使用になるように、クラスルームイングリッシュの使用も意識して行った。中学校授業へのスムーズな橋渡しになった。

④　中２外国語科公開授業（小中連携研究授業）

小中交流の一環として公開授業を行った。小学校の先生方へ、授業実践、活動形態などを参観いただくことで、子どもたちの成長した姿、中２段階でつけておくべき力を把握していただき、また、中学校での授業規律を観ていただくことを目的に行った。振り返りから顕著だったのは、公開した授業が小学校教員への刺激になったことだ。

⑤　小６・中２合同授業

企画・運営を中２がすべて行った合同授業を行った。小６が中学校入学を楽しみになるように、テーマを「期待」と設定し、取り組みを行った。小６が来年度使う検定教科書のリーディング教材を使い、スキット、紙芝居、指人形劇などのパフォーマンスをした。交流の中で、共通して行っている帯活動を一緒に行ったり、英語で対話をしたりして交流を深めた。

後日、小学生一人ひとりから感謝のメッセージが届き、それに対しての返信を書くなどの交流の継続を行っている。

小６へは、中学校への不安が払拭され、中２には、長い読み物を覚え披露でき、出迎え・司会・見送りまですべて英語で行えたことの自信となり、自己有用感の醸成につながる授業となった。

⑥　小６総合的な学習の時間と英語のコラボ（思い出マップ）

小６最後の授業参観で披露した「思い出マップ」を使い、英語でスピーチを行った。ビデオで撮影し、下級生に見せることで、良いロールモデルとして、英語パフォーマンスの文化を引き継いでいきたいと考える。

(2)　目的・場面・状況を意識した言語活動の充実

場面シラバスである小学校英語と文法シラバスである中学校英語で、中１が段差を感じることがないように、学習指導要領に則った言語活動を行った。小学校で行ったことが中２でも活用できるように、指導内容の接続も行った。

(3)　学習支援

①　デジタル教材の活用

小学校、中学校ともに、デジタル教科書やタブレットを活用し、自己選択できる課題設定を行い、個別最適な学びが実現する支援を行った。

特に、自分のパフォーマンスを録画し、自己検証することで、メタ認知力を育むことにつながった。

②　教育支援システムの活用

タブレットの動画機能及び学習支援システム（オクリンク）を利用し、パフォーマンスの様子を提出させた。

(4)　小中連携

①　振り返りシート

パフォーマンスを行う際に、必ず評価の観点を示し、振り返りを行った。必ず自己更新につながる振り返りになるように、小中ともに指導を行い、それに対するフィードバックも行った。

②　学びの作法

中学校の「学びの作法」を小学校でも取り入れるように働きかけた。授業規律の徹底が、小中の隔たりと子どもの負担をなくすきっかけになることをねらっている。「靴のかかとを揃える」「語先後礼」など、具体的に取り組みを行っていることが、子どもたちの意識向上につながっている。

４　検証結果

※成果指標の検証方法および結果

〇児童アンケートの結果（６－１，２，３の児童）から

４月の自分を思い出してください。今の自分の気持ちや考え、状態に当てはまるものに〇をしましょう。

①　英語の学習が好きになった
②　英語の授業が楽しくなった
③　英語の学習が大切だと思った
④　友達や先生と進んで英語でやり取りをするようになった
⑤　自分の考えや気持ちなどを英語で話をするようになった
⑥　学習した英語を使ってみたいと思うようになった
⑦　外国の人と話をしてみたいと思うようになった
⑧　自分の言いたいことを英語でどういうか調べてみたいと思うようになった
⑨　英語の授業を通して、友だちと仲良くなったり友だちのことを知ることができたりした
⑩　日本語と英語の音違いや共通点を見つけることなど、言葉の仕組みや決まりに興味を持つようになった
⑪　英語の力が伸びていると感じる
⑫　英語の授業で学習したことは、将来社会に出た時に役立つと思う
⑬　中２との交流授業で中学校の英語が楽しみになった
⑭　将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業についたりしたいと思う

	4	3	2	1
①	24%	57%	13%	6%
②	26%	55%	16%	4%
③	70%	22%	6%	2%
④	22%	41%	29%	9%
⑤	11%	57%	24%	9%
⑥	57%	29%	13%	1%
⑦	45%	33%	17%	6%
⑧	44%	40%	12%	4%
⑨	32%	40%	18%	10%
⑩	40%	41%	13%	6%
⑪	44%	45%	11%	1%
⑫	70%	23%	5%	2%
⑬	24%	59%	14%	4%
⑭	23%	35%	32%	11%

４：よくあてはまる
３：ややあてはまる
２：あまりあてはまらない
１：まったくあてはまらない

５　研究成果

（１）成果と課題

成果

①　英語専門の教師が小学校へ出向くことで、児童の英語に対する意識が変わり、主体的な学習に結び付いた。（アンケート結果③）

より専門性の高い知識と技能を提供することが、児童の英語使用についての意識を向上させている。（アンケート結果⑥⑦）

指導法、指導内容をつなぐ実践を行うことができた.

②　中学校の教員は、中学生の生徒実態（小学校での英語学習歴）を把握し、授業実践に活かすことにつなげることができた。

また、小学生との合同授業では、生徒主体の活動を行ったことが、生徒の自己有用感醸成に大きく貢献している。（アンケート結果⑪⑫）

また、小学生も中学校入学を楽しみに思っている子が多いことが挙げられる。（アンケート結果⑬）

③　特に６年生担任と、特別支援の教員との連携が図れたことである。生徒情報はもちろん、授業内容の進捗を共有することができたことが、４５分の授業時間を有効活用することに大きく役立った。

④　公民館へ美術科の作品展示をすることで、地域に向け、学校の取り組みを披露した。

課題

①　小中両校にとって、授業時数確保が困難だったことである。行事や祝日などでカレンダー通りの時間数の確保ができない状況であった。

②　中学校から小学校移動がある日があることで、中学生への指導が入れづらいことと、小学生の実態をつかみづらく、個別支援が授業時間のみしか行えないことである。（アンケート結果④）

③　小学校授業日は、６年生の教室で３時間授業をして、午後からの中学校の授業の準備をする状態である。よって、６年担任とは交流できるが、他学年の教員とは全く交流ができなかった。

④「学びの作法」の共有は行っているが、小中の授業ルールの違い（休憩時間の過ごし方、タブレット使用法・時間、宿題の扱いなど）小学校は学級ごとにルールが違うところもあるため、それが中学校入学時の子どもの戸惑いにつながると感じている。

⑤　引き続き、公民館を活用した成果物発表を行うために、各学年の総合的な時間の取り組みを活性化させる。

この報告書は書庫等に掲載し、全市に公開します。２～４ページでまとめてください。
報告書とは別に資料を付けても構いません。令和６年２月２９日提出締切